

**鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報
21**

平成17年度

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

2007年3月

序 文

鹿児島大学埋蔵文化財調査室平成 17 年度の事業報告として、『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 21』を刊行いたします。

平成 17 年度には郡元キャンパスで発掘調査 3 件、立会調査 8 件を、桜ヶ丘キャンパスでは試掘調査 1 件、立会調査 1 件を実施いたしました。本年報には、それらの調査概要も掲載されております。

キャンパス内では、年々、教育研究のための環境整備が進められ、それに先立って必要な埋蔵文化財調査が行われております。学内埋蔵文化財の調査事業の円滑な実施のため、また、鹿児島大学の埋蔵文化財を大切にす姿勢をアピールするため、関係皆様方のご協力とご支援をお願い申し上げます。

平成 19 年 3 月 12 日

鹿児島大学埋蔵文化財調査室長

新田 栄治

例言・凡例

1. 本書は、鹿児島大学埋蔵文化財調査室の2005（平成17）年度の事業概要である。
2. 本書に掲載している調査は、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が担当した。
3. 本書の作成にあたっては、埋蔵文化財調査室が行なった。執筆・編集は、中村と新里が行った。
4. 本書で報告している遺物は、埋蔵文化財調査室の管理のもと、学内にて保管している。また、図面・写真などの資料は埋蔵文化財調査室に保管している。
5. 本報告書におけるレベル高は、すべて海拔高を表し、方位は真北方向を示す。
6. 土層の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用した。

目次

1	2005（平成 17 年度）の事業概要	1
2	郡元団地 D-7・8 区（農学部 5 号館改修工事）における試掘調査	6
	1 調査にいたる経過	6
	2 調査期間と体制	6
	3 調査の経過	6
	4 層位	6
	5 遺物	10
	6 まとめ	10
3	立会調査	11
	鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会規則	19
	鹿児島大学埋蔵文化財調査室規則	19

報告書抄録

ふりがな	かごしまだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんぼうにじゅういち							
書名	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 21							
編著者名	中村直子・新里貴之							
編集機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査室							
所在地	〒 890-8580 鹿児島市郡元一丁目 21 番 24 号 Tel. 099-285-7270 Fax 099-285-7271							
発行年月日	2007 年 3 月							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査 起因
		市町村	遺跡番号					
鹿児島大学構内遺跡 郡元団地 D-7・8 区	鹿児島市郡元一丁 目 21 番 24 号	4620	1-23-0	31° 34' 11"	130° 32' 48"	2005 年 7 月 19 日～ 27 日	11	校舎 改修 特記 事項
所収遺跡名	種別	主な年代	主な遺構	主な遺物				
鹿児島大学構内遺跡		近世		陶磁器				
郡元団地 D-7・8 区		古墳時代		東原式土器				

1 2005(平成17年度)の事業概要

2005年度は、発掘調査3件、試掘調査1件、立会調査9件を実施した。農学部PFI関連事業と教育学部附属小学校校舎改修工事業に伴う調査が多かった。

遺物の整理作業は3件の発掘調査出土遺物について、また、発掘調査報告書1冊と年報を発行した。詳細は以下の通りである (Tab. 1)。

Tab. 1 2005年度の事業一覧

事業	調査コード	調査区	調査名	担当者	期間	備考
発掘調査	2005-1	郡元団地 R-5・6・7区	教育学部附属小学校校舎改修に伴う発掘調査(1次)	中村・有村	6月21日～9月16日	近代や古代の溝、幕末前後の銃弾、中世～弥生時代中期の遺物
	2005-3	郡元団地 Q-10区	「教育学部附属中学校敷地内遺跡」再調査	新里	8月16～26日	古墳時代の住居跡
	2005-4	郡元団地	農学部5号館改修工事に伴う発掘調査	中村	9月1日～10月31日	近世～弥生時代の遺物
試掘調査	2005-2	郡元団地	農学部5号館改修工事に伴う試掘調査	新里	7月19～27日	近世～弥生時代の遺物出土
立会調査	2005-A	桜ヶ丘団地 M-6・5区	桜ヶ丘野球場南側他駐車場整備工事	鹿児島市教委 新里	4月26日	
	2005-B	郡元団地 F-4・5区	事務局庁舎南側給水管補修工事	新里	7月26日	
	2005-C	郡元団地 D-8・CDE-5区	農学部1号館周辺ボーリング調査	鹿児島市教委 新里	8月2日	
	2005-D	郡元団地 RST-5区	教育学部附属小学校建物改修に伴う樹木移植工事	鹿児島市教委 中村直子	9月26日	
	2005-E	郡元団地 C-3区	農学部PFI事業工事車両進入路	鹿児島市教委 新里貴之	10月25日	
	2005-F	郡元団地 K-7・8区	共通教育3号館における空調整備改修工事	鹿児島市教委 新里貴之	10月25日	
	2005-G	郡元団地 D-8区	農学部5号館井水漏水工事	新里	1月5日	
	2005-H	郡元団地 R-5区	教育学部附属小学校改修に伴う樹木伐採工事	鹿児島市教委 中村直子	1月29日	
	2005-I	郡元団地 BCD-7・8区	農学部5号館改修に伴う配管埋設工事	鹿児島市教委 中村直子	2月14・16・27日・ 3月6・13・14日	
	95-5	郡元団地 H-9区	情報処理センター建設に伴う発掘調査(3次)	中村		近代～縄文時代の遺物
遺物整理 作業	93-1	郡元団地 K・L-6区	中央図書館建設に伴う発掘調査C地点(包含層出土)	有村・篠原・福永		
	95-1	郡元団地 K・L-5・6区	中央図書館建設に伴う発掘調査DE地点(包含層出土)	有村・篠原・福永		
刊行物	年報		鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報21	新里	2006年3月発行	2004年度の事業報告
	発掘調査報告書		鹿児島大学構内遺跡郡元団地H-9区	中村	2006年3月発行	95-5の報告

試掘調査と立会調査については、2 章以降に詳細を報告し、ここでは、発掘調査の概要について述べる。

2005-1 郡元団地 R-5・6・7 区 (教育学部附属小学校校舎改修)

附属小学校改修工事に伴い、掘削予定地のうち、平成 17 年度工事実施予定の校舎北側 990 m²の調査を行った。調査の結果、近代・近世・中世・古代・古墳時代・弥生時代の埋蔵文化財が確認できた。遺構としては、近代の溝状遺構、近世の水田跡、古代の溝状遺構を検出した。

調査区周辺は古代・古墳時代の遺構や遺物が多く確認されている場所である。本地点より北東側 70m に位置する教育学部附属幼稚園舎建設に伴う発掘調査では古墳時代の住居跡が 3 基確認されているが、本地点では古墳時代の住居跡はなく、幼稚園での住居跡群の範囲は南西には伸びていないことが確認できた。

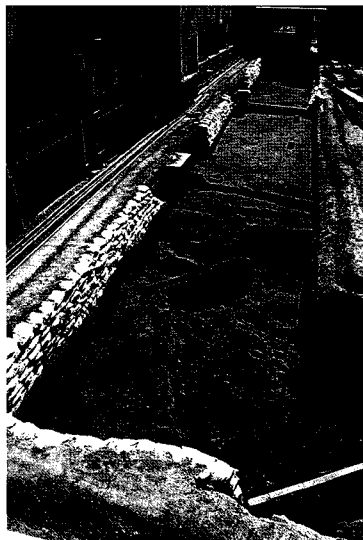
2005-3 郡元団地 Q-10 区 (「教育学部附属中学校敷地内遺跡」：大学関連施設内危険箇所指定に関する附中敷地内保存住居埋め戻しに伴う再調査)

本地点は、昭和 26 年に河口貞徳氏によって調査された『教育学部附属中学校遺跡』である。この調査で検出された古墳時代の住居跡は上屋を設置して保存されていた。しかし、この保存住居跡の活用が困難なことから、この場所が現地表面より約 1.5 m 深く、安全上の問題があることから、埋めて保存することになった。埋蔵文化財調査室では、埋め戻し工事に伴って、住居跡の再調査を実施した。地盤が砂地のため住居壁面などが崩壊しているだろうと予想されたのだが、調査の結果、昭和 26 年の調査終了後に白砂によって検出面まで埋められていることが判明し、竪穴内は良好な状態で保存されていた。調査では、竪穴内を含む住居跡の再実測を行った。調査成果については、平成 18 年度発行の報告書『鹿児島大学構内遺跡郡元団地』に掲載する予定である。

2005-4 郡元団地 D-7・8 区 (農学部 5 号館改修工事)

農学部全体の改修が平成 17 年度から計画されているが、平成 17 年度は 5 号館の改修工事に伴う発掘調査を実施した。5 号館の南北壁面に沿った幅 1.3 ～ 2m 中の細長い調査区であった。平成 17 年 7 月に試掘調査を行い(本書 2 章に報告掲載)、埋蔵文化財が包含されていることを確認したため、本調査を実施することとなった。

本地点では、複数層にわたって近代・近世・中世・古墳時代・弥生時代の埋蔵文化財が確認された。遺構は、近世の土壇 1 基が確認されたが、その性格は不明である。遺物量は少なく、小片で摩滅しているものが多かった。また、南側に遺物の出土が集中していた。北側の調査区では配管埋設のため、調査区の多くが現代の攪乱を受け、包含層の残りが悪かった。



PL.1 2005-1 附属小学校 2 区古代の溝状遺構 (東から)



PL.2 2005-4 農学部 5 号館南区完掘状況 (西から)

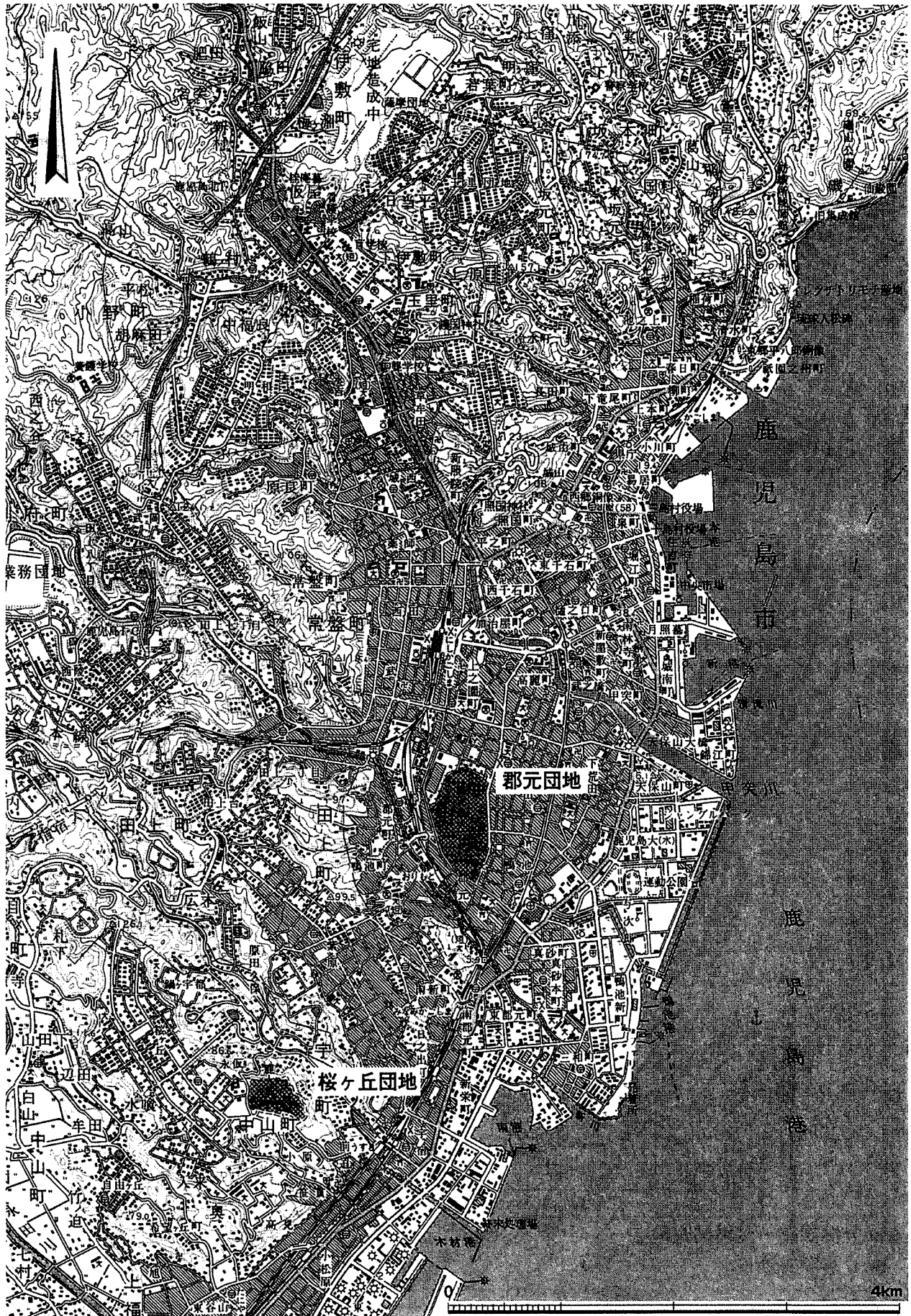


Fig.1 鹿児島大学構内遺跡の位置 (S=1/50000)

国土地理院発行の5万分の1地形図(鹿児島)

1 2005(平成17年度)の事業概要

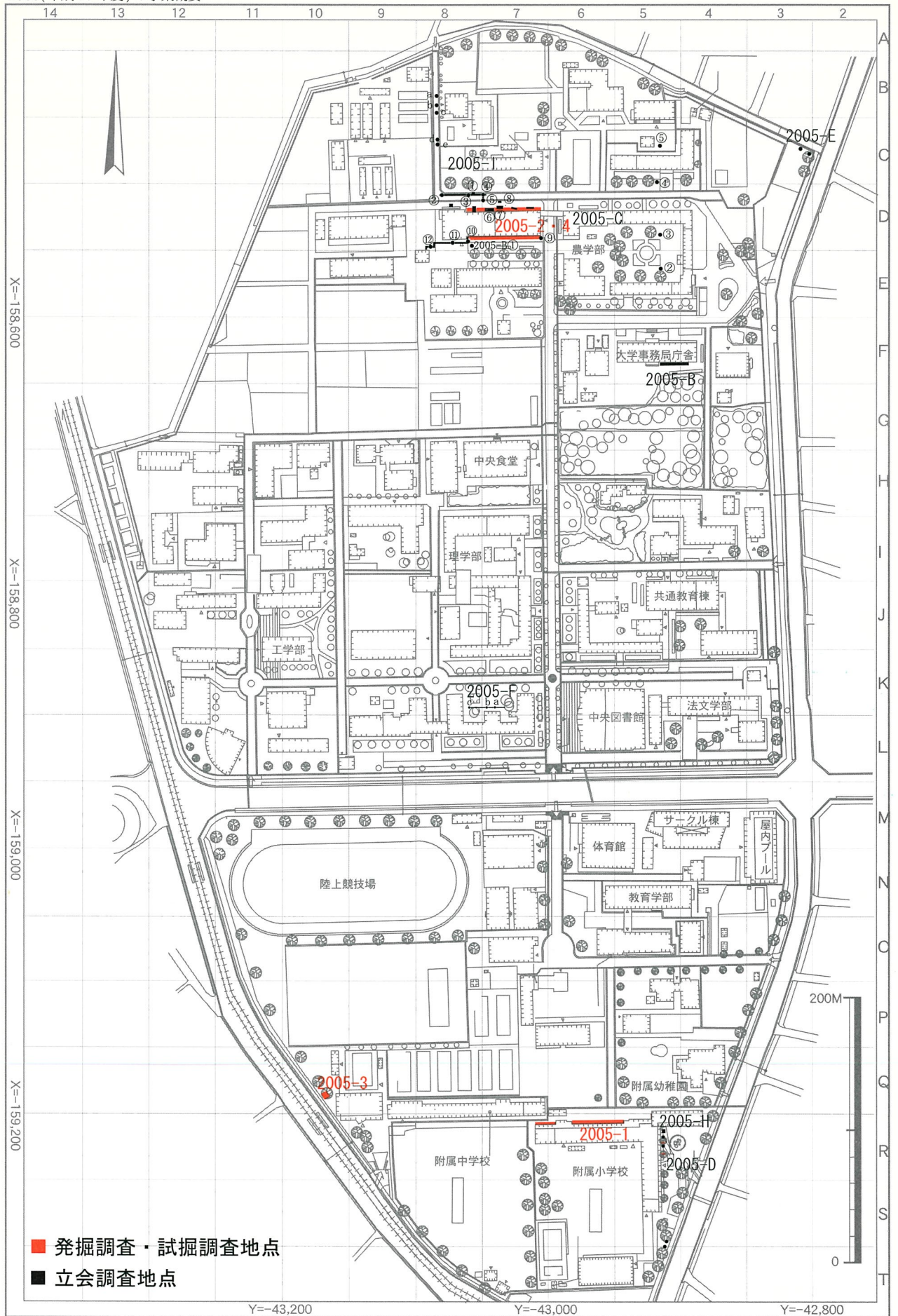


Fig.2 郡元団地構内図(S=1/4000)

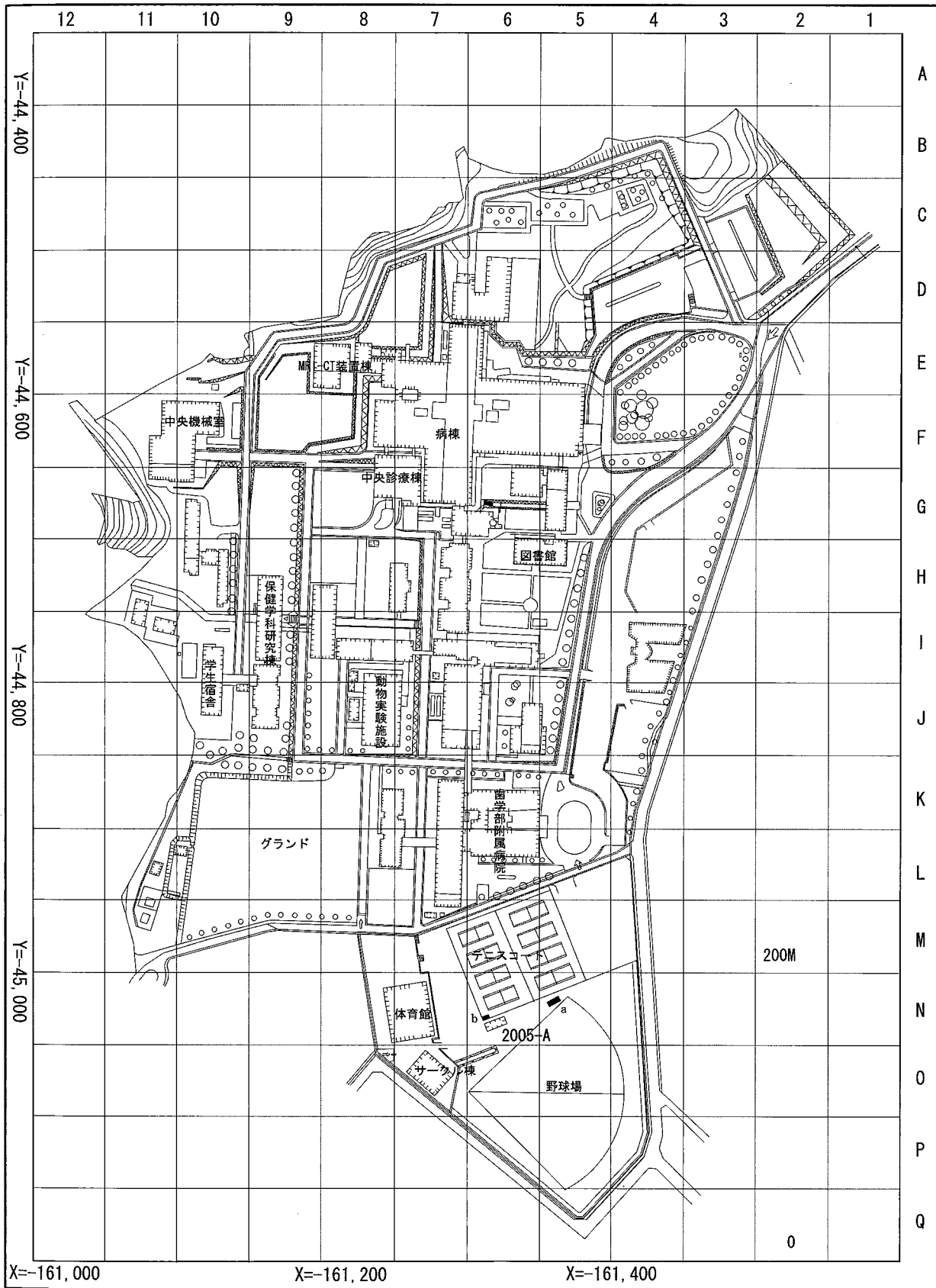


Fig.3 桜ヶ丘団地構内図(S=1/4000)

2 郡元団地 D-7・8 区（農学部 5 号館改修工事）における試掘調査

1 調査にいたる経過

鹿児島大学では、平成 17～21 年度にかけて、PFI 事業として農学部改修工事が計画されている。今年度は農学部 5 号館の改修工事が予定されているが、本地点における埋蔵文化財のデータがほとんどなかったため、本調査に先立ち、鹿児島大学埋蔵文化財調査室によって試掘調査を実施することとなった。

2 調査期間と体制

調査体制と期間については、以下の通りである。

所在地 鹿児島市郡元 1 丁目 21 番 24 号（農学部 5 号館周辺）

調査面積 11m²

調査期間 平成 17 年 7 月 19 日～7 月 27 日

調査体制 主体者：鹿児島大学埋蔵文化財調査室 室長 新田栄治

担当：鹿児島大学埋蔵文化財調査室 室員 新里貴之

国際航業株式会社 調査代理人：飯田英樹

発掘作業員：仮屋秋雄・仮屋マサ子・川島秀義・弓場ナツ子・脇マス子

3 調査の経過

試掘トレンチは、5 号館を南北に挟んで対角線上に 2 か所配置した (Fig.4)。南側を 1 トレンチ (2 × 2.5m)、北側を 2 トレンチ (3 × 2m) とした。

調査は、北側の 2 トレンチから開始したが、攪乱が著しい状況であった。南側 1 トレンチは、比較的良好に未攪乱層が保存されており、また、わずかではあるが遺物も出土した。1 トレンチと 2 トレンチでは層位が若干異なっていたため、それぞれに分層を行った。1 トレンチでは 10 層まで確認したが、水が湧き出してくる無遺物層で掘削を停止した。4 層と 5 層で遺物が出土した。2 トレンチでは、8 層上面まで掘削を実施したが、やはり水が湧き出したため、そこで調査を終了した。2 トレンチの 8 層は、1 トレンチの 9 層に対応する。

調査は層ごとに掘削を行い、出土遺物は 1 点ずつ出土場所を測量して取上げた。遺構はなかったため、掘削後調査区壁面の層位観察、測量を行い、トレンチを埋め戻して終了した。

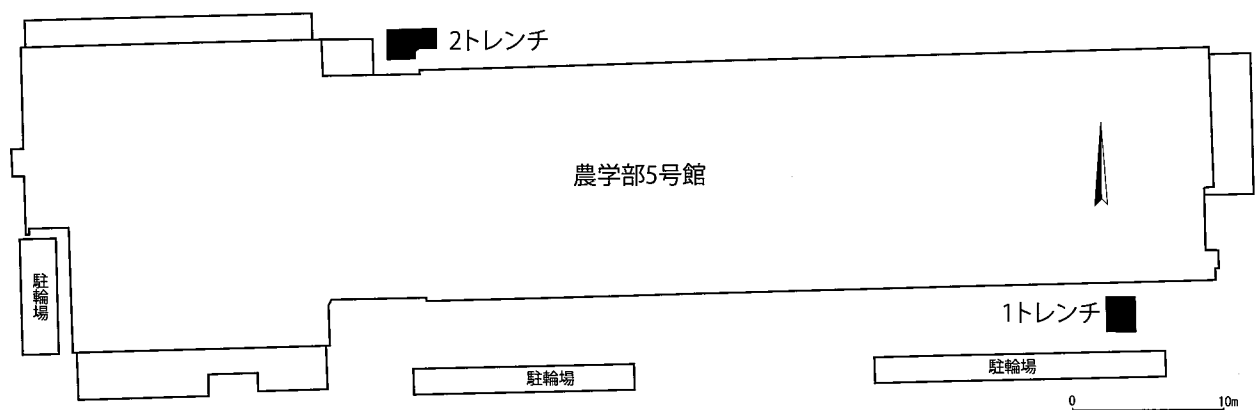


Fig. 4 調査区の位置 S=1/500

4 層位 (Fig.6)

1 トレンチ

1層 表土。

2a層 黒褐色 10YR3/2 砂質シルト。0.5～1cm 大のパミス含む。硬くしまっている。

2b層 灰黄褐色 10YR4/2 砂質シルト。0.5～1cm 大のパミス含む。硬くしまっている。

3a層 灰黄褐色 10YR5/2 と灰黄褐色 10YR4/2 の中間色砂質シルト。0.5～1cm 大のパミス含む。硬くしまっている。

3b層 灰黄褐色 10YR5/2 と灰黄褐色 10YR4/2 の中間色砂質シルト。0.5～1cm 大のパミス含む。硬くしまっている。マンガンの浸透がみられる。

4a層 褐灰色 10YR4/1 砂質シルト。0.5～1cm 大のパミス含む。硬くしまっている。マンガン多量に浸透する。【遺物包含層】。

4b層 灰黄褐色 10YR4/2 砂質シルト。0.5～1cm 大のパミス含む。硬くしまっている。マンガン多量に浸透する。【遺物包含層】。

4c層 灰黄褐色 10YR5/2 と灰黄褐色 10YR4/2 の中間色砂質シルト。0.5～1cm 大のパミス含む。硬くしまっている。マンガン多量に浸透する。

4d層 灰黄褐色 10YR4/2 砂質シルト。0.5～1cm 大のパミス含む。硬くしまっている。

5a層 黒褐色 10YR3/1 と黒褐色 10YR3/2 の中間色砂質シルト（やや粗砂が多い）。0.5～1cm 大のパミス含む。硬くしまっている。マンガン多量に浸透する。【遺物包含層】。

5b層 黒褐色 10YR2/2 砂質シルト（やや粗砂が多い）。0.5～1cm 大のパミス少し含む。硬くしまっている。マンガン多量に浸透する。やや粘質。

6層 暗褐色 10YR3/3 シルト。部分的に褐色 10YR4/6 シルトがマーブル状に入る。粘質。

7層 褐灰色 10YR4/1 と黒褐色 10YR3/1 の中間色シルト。粘質。

8a層 にぶい黄褐色 10YR5/3 シルト。粘質。マンガン多量に浸透する。

8b層 灰黄褐色 10YR4/2 粗砂。部分的に 8c層シルトが入るところもある。やわらかい。

8c層 にぶい黄褐色 10YR5/3 シルト。粘質。マンガン多量に浸透する。

9a層 黒色 10YR2/1 シルト。粘質。マンガン少量浸透する。

9b層 黒色 10YR2/1 シルトをベースに褐色 10YR4/4 シルトが薄い層で入る。粘質。

9c層 黒色 10YR2/1 シルト。わずかに粗砂混じり。粘質。マンガン少量浸透する。

9d層 黒色 10YR2/1 シルトベースに黒褐色 10YR3/2 粗砂混じり。粘質。1～2cm 大のパミス少し含む。

9e層 9b層に同じ。

9f層 黒色 10YR2/1 シルトにわずかに黒褐色 10YR3/2 粗砂まじり。粘質。2～5cm 大のパミス少し含む。

10a層 にぶい黄褐色 10YR5/3 粗細砂層。わずかにシルト混じり。1～3cm 大のパミス少し含む。やわらかい。

10b層 明褐色 7.5YR5/8 粗砂。1～3cm 大のパミス混じり。やわらかい。

10c層 にぶい黄褐色 10YR5/3 細砂層。やわらかい。

10d層 10b層に同じ。

10e層 灰色 5Y4/1 粗砂層。1～10cm 大のパミス多く含む。やわらかい。

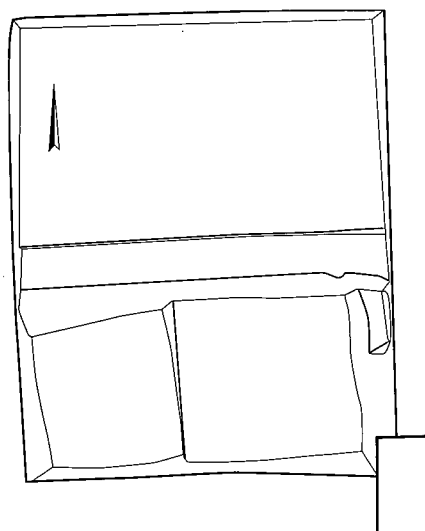
2 トレンチ

1層 表土。

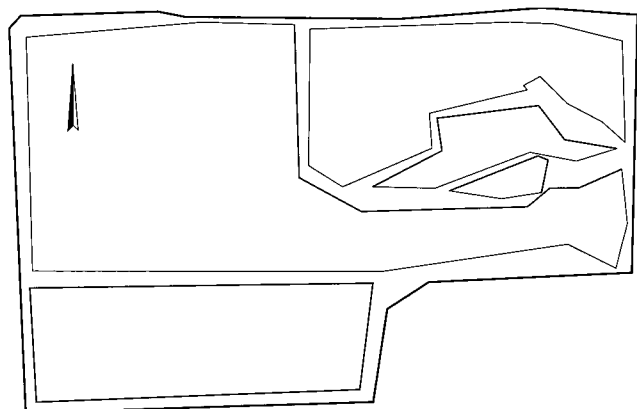
2層 暗灰黄色 2.5Y 5/2 細砂層をベースとしてところどころに褐色 10YR4/6 粗砂が層状に入る。

3a層 黒褐色 10YR3/4 シルトを基調とし、にぶい黄褐色 10YR 5/3 細砂をブロックで含む。硬くしまる。

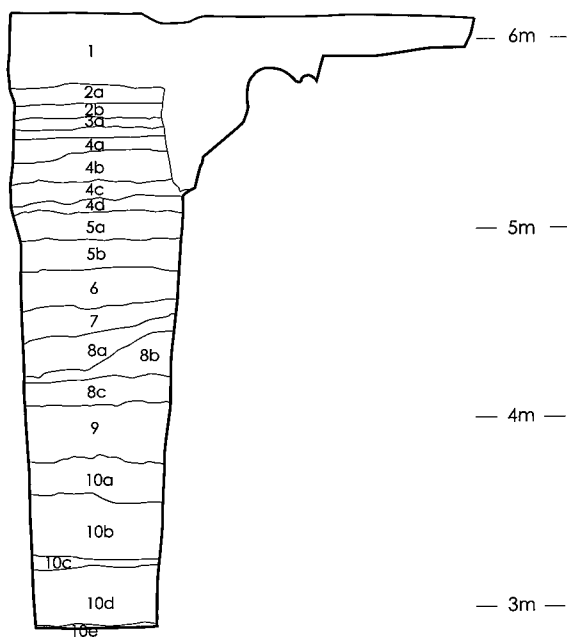
3b層 黒褐色 10YR 3/2 シルト。マンガン浸透。硬くしまる。



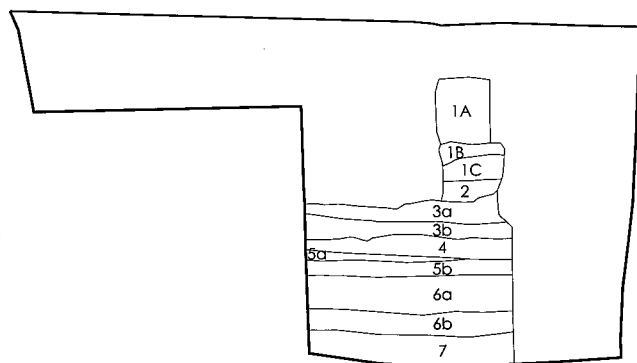
1トレンチ完掘状況



2トレンチ完掘状況



1トレンチ西壁



2トレンチ北壁

0 1m

Fig.5 完掘状況の平面図と層位断面図 S=1/40

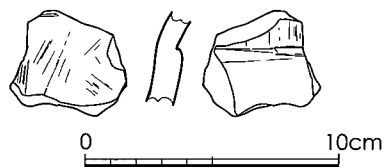


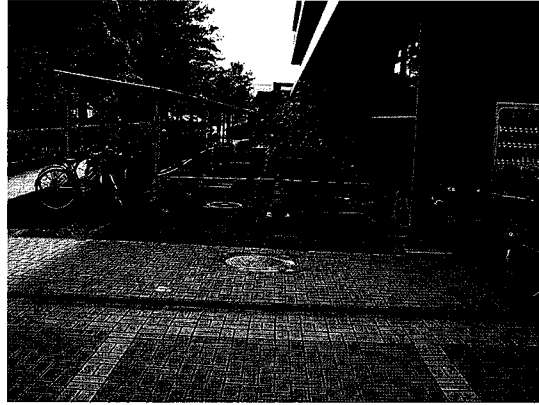
Fig.6 出土遺物実測図 S=1/3



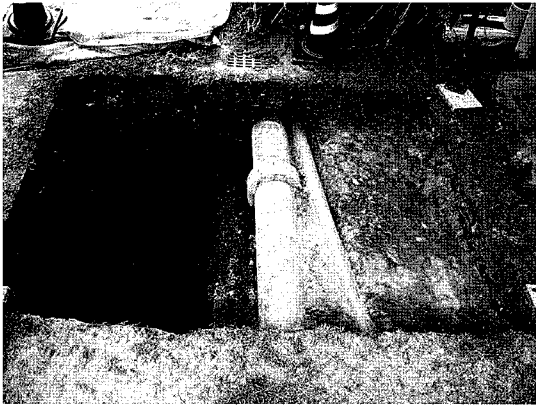
PL.3 出土遺物 左：外面，右：内面



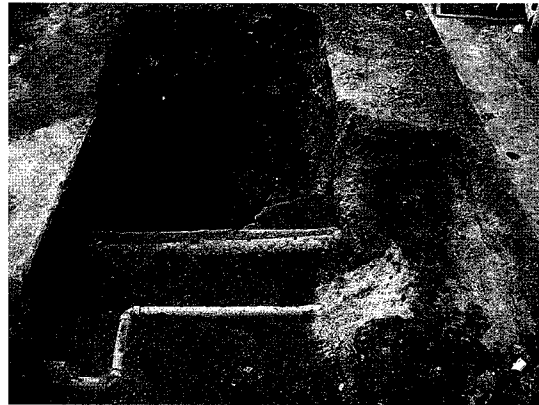
1



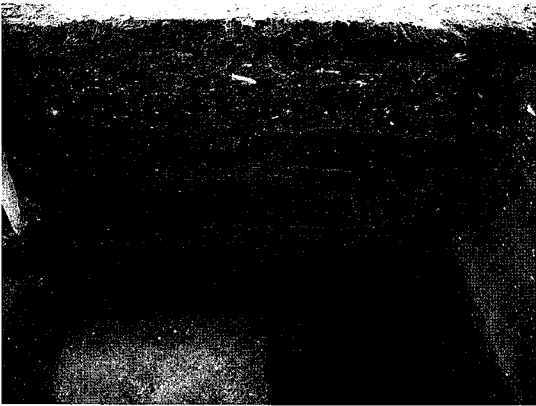
5



2



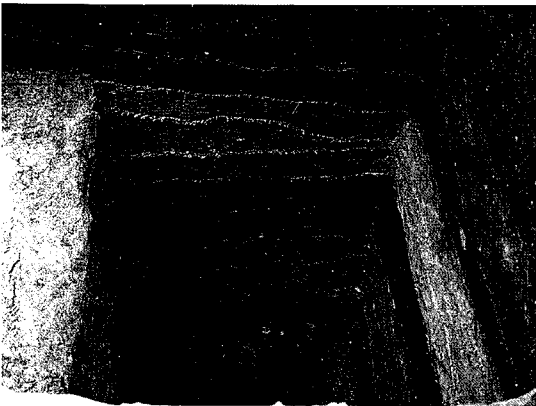
6



3



7



4

PL.4 各トレンチの状況と層位

- 1 1トレンチ調査前・(北東より)
- 2 1トレンチ完掘状況 (東より)
- 3 1トレンチ西壁
- 4 1トレンチ西壁下部
- 5 2トレンチ調査前 (東より)
- 6 2トレンチ完掘状況 (西から)
- 7 2トレンチ北壁

4 層 黒褐色 7.5 YR3/1 シルト。マンガン浸透。硬くしまる。

5a 層 黒褐色 10YR 3/2 シルト質砂。やわらかい。

5b 層 にぶい黄褐色 10YR 5/3 シルト質細砂。やわらかい。

6a 層 にぶい黄橙色 10YR 6/3 粗細砂。0.5 ～ 1cm 大のパミスを多く含む。

6b 層 にぶい黄橙色 10YR 6/3 粗砂層。部分的に褐色 10YR 4/6 粗砂が混ざる。やわらかく、0.5 ～ 2cm 大のパミス多く含む。

7 層 にぶい黄橙色 10YR 6/3 シルト。部分的に褐色 10YR 4/6 混じり。

8 層 黒色 10YR 1.7/1 よりも漆黒のシルト。水分を多く含む。

5 遺物 (Fig.6, PL.3)

出土遺物は少破片のみ 9 点であった。1 トレンチの 4a・4b・5a 層から出土している。時期の判断可能なものは、4a・4b 層から古代以降のものと考えられる土師器が、5a 層で甕の口縁部が出土した。10 層の粗砂層からは、自然遺物である木片が出土した。

唯一、図化できた甕の口縁部は、端部が欠損しているが、屈曲部外面に板状工具の刺突痕が横方向に連続的に施され、そこから上方向へなで上げられた「カキアゲ」と呼ばれる調整痕が認められる。カキアゲが施されるのは、中津野式から東原式の甕に多いのだが、口縁部外反の緩やかさから東原式（古墳時代前期）であろうと考えられる。色調は、外面は鉄分が付着しているが、内面はにぶい赤褐色（5YR5/4）を呈する。内面の調整はハケが認められ、2 mm 幅の太いハケの間に細かい筋がある特徴が、外面のカキアゲ痕と同じで、同一工具によって施されていると推定できる。

6 まとめ

本調査では、1 トレンチで遺物が出土した。遺物は、4a・4b・5a 層から出土しており、近世～弥生時代の複数時期に及ぶ。2 トレンチでは、遺物は出土しなかったが、1 トレンチの遺物包含層に対応する層が確認できる。これらの結果をふまえ、本調査地点周辺には埋蔵文化財包蔵されていると考えられる。

3 立会調査

平成 17 年度は、立会調査 9 件を実施した。郡元団地が 8 件、桜ヶ丘団地は 1 件である。なお、国立大学の法人化にともない、本年度より調査は鹿児島市教育委員会文化課の職員立会いのもと実施されることになった。

2005-A 桜ヶ丘野球場南側他駐車場整備工事 (Fig.3, PL.5)

調査地点 桜ヶ丘キャンパス野球場 (桜ヶ丘団地 M- 6・5 区)

調査期間 平成 17 年 4 月 26 日

調査担当 鹿児島市教育委員会文化課 田中竜太・森岡久美子

埋蔵文化財調査室 新里貴之

本工事は、野球場とその東側に位置する駐車場整備のためのものである。野球場には、その周囲にフェンス設置が予定され、フェンス支柱を埋設工事が必要となった。桜ヶ丘団地造成前は、野球場付近より西側の旧地形は谷でそれを埋め立ててグラウンドとしている。掘削工事深度内にプライマリーな層が包含されているかを確認するため、工事予定地の東側 2 か所の試掘を実施した (Fig.3 -a・b)。

a 地点は 1×2 m の範囲を地表下 75cm まで、b 地点は 1×3 m の範囲を地表下 1.5m までの掘削した。その結果、両地点とも盛土であったため、他の支柱設置場所でも盛土がさらに深く堆積しているものと推定され、立会調査を終了した。

2005-B 事務局庁舎南側給水管補修工事 (Fig.2, PL.6)

調査地点 郡元キャンパス事務局庁舎南側 (郡元団地 F- 4・5 区)

調査期間 平成 17 年 7 月 26 日

調査担当 埋蔵文化財調査室 新里貴之

郡元キャンパス事務局庁舎南側駐車場にて給水管破裂のため、緊急に補修工事が必要となった。埋蔵文化財調査室では鹿児島市教育委員会へ連絡し、当調査室単独で調査を実施することとなった。

工事は緊急を要したため、調査員が到着した時には既に掘削が終了していた。掘削は幅 30cm、長さ 10m、深さ 30cm であったが、土層観察の結果、既掘部であり、特に埋蔵文化財への影響はないと判断された。

2005-C 農学部 1 号館周辺ボーリング調査 (Fig.2・

7, PL.6)

調査地点 郡元キャンパス農学部 1 号館周辺 (郡元団地 D-8・CDE-5 区)

調査期間 平成 17 年 8 月 2 日

調査担当 鹿児島市教育委員会文化課 佐々木幸男

埋蔵文化財調査室 新里貴之

農学部改修事業に伴うボーリング調査のため、5 か所の掘削が予定された。このうち、③地点と⑤地点は深さ 50cm で、表土のみの掘削であったが、それ以外は下層まで掘削が達した。

① 2 層：灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト、0.5 ~ 2 cm 大のパミスを含む。硬くしまっている。

② 2 層：にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質シルト、0.5

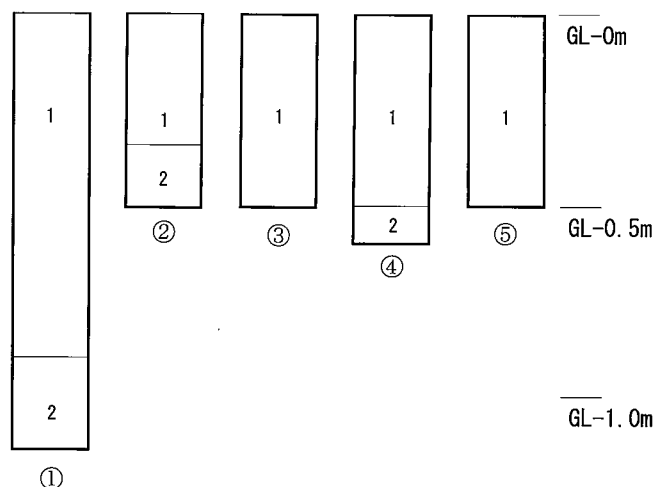


Fig.7 2005-C 層位柱状図

3 立会調査

～2cm 大のパミスを含む。硬くしまっている。

④ 2 層：にぶい黄褐色（10YR4/3）細砂層、1～3cm 大のパミスを含む。硬くしまっている。

2005-D 教育学部附属小学校建物改修に伴う樹木移植工事 (Fig.2)

調査地点 郡元キャンパス教育学部附属小学校（郡元団地 RST-5 区）

調査期間 平成 17 年 9 月 26 日

調査担当 鹿児島市教育委員会文化課 佐々木幸男

埋蔵文化財調査室 中村直子

教育学部附属小学校校舎改修に伴う樹木の移植工事に伴い、立会調査を実施した。掘削は移植元・移植先それぞれ 2 か所で、いずれも地表下 50cm までであった。その結果、表土の範囲の掘削で、埋蔵文化財への影響はなかった。

2005-E 農学部 PFI 事業工事車両進入路 (Fig.2・PL.7)

調査地点 郡元キャンパス正門北側テニスコート（郡元団地 C-3 区）

調査期間 平成 17 年 10 月 25 日

調査担当 鹿児島市教育委員会文化課 佐々木幸男

埋蔵文化財調査室 新里貴之

農学部改修事業にともなう工事車両進入路の設置工事のため、立会調査を実施した。掘削予定範囲のうち、地表下 80cm までの 2 か所の試掘を行ったところ、ともに表土の範囲であったため埋蔵文化財への影響はないと判断され、立会調査を終了した。

2005-F 共通教育 3 号館における空調整備改修工事 (Fig. 2・8, PL. 8)

調査地点 郡元キャンパス共通教育棟 3 号館北側中庭（郡元団地 K-7・8 区）

調査期間 平成 17 年 10 月 25 日

調査担当 鹿児島市教育委員会文化課 佐々木幸男

埋蔵文化財調査室 新里貴之

共通教育棟 3 号館北側中庭において、配管埋設のための工事にともなう立会調査を実施した。a・c 地点は既掘部であったが、b 地点では地表下 40cm 以下よりプライマリーな層が確認できた。3 層からは土器小片が出土しているが、2・3 層とも土層の状況から近代の水田層にあたりと考えられる。

b 地点 2 層：にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質シルト、0.5～2cm 大のパミスを含む。硬くしまる。

b 地点 3 層：褐灰色（10YR4/1）砂質シルト、0.5cm 大のパミスを含む。硬くしまる。土器小片 1 点出土。

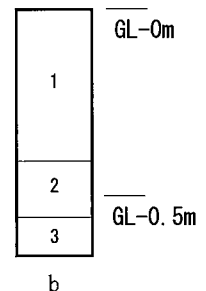


Fig.8 2005-F 層位柱状図

2005-G 農学部 5 号館井水漏水工事 (Fig. 2・PL. 8)

調査地点 郡元キャンパス農学部 5 号館北側（郡元団地 D-8 区）

調査期間 平成 18 年 1 月 5 日

調査担当 埋蔵文化財調査室 新里貴之

井水管漏水事故のため、管補修に伴う掘削工事を緊急に実施することになった。埋蔵文化財調査室では、その旨、鹿児島市教育委員会に連絡し、当調査室単独で調査を実施した。調査の結果、掘削部分は既掘部で埋蔵文化財への影響はなかった。

2005-H 教育学部附属小学校改修に伴う樹木伐採工事 (Fig. 2, PL. 9)

調査地点 郡元キャンパス教育学部附属小学校 (郡元団地 R-5 区)

調査期間 平成 18 年 1 月 29 日

調査担当 鹿児島市教育委員会文化課 佐々木幸男

埋蔵文化財調査室 中村直子

教育学部附属小学校校舎改修に伴い、校舎東側の樹木伐根工事を実施することになり、立会調査を実施した。埋蔵文化財調査室では、平成 17 年 8 月に工事予定地の南側にあたる校舎玄関付近で改修工事に伴う試掘調査を実施しており、その地点での表土は 80cm であった。

本調査では、工事予定地の北側にあたる地点を試掘したところ、掘削予定の 50cm でも表土の範囲であったため、工事が埋蔵文化財に影響しないと判断し、立会調査を終了した。

2005-I 農学部 5 号館改修に伴う配管埋設工事 (Fig. 2・9, PL. 9・10)

調査地点 郡元キャンパス農学部 (郡元団地 BCD-7・8 区)

調査期間 平成 18 年 2 月 14・16・27 日・3 月 6・13・14 日

調査担当 鹿児島市教育委員会文化課 佐々木幸男

埋蔵文化財調査室 新里貴之・中村直子

農学部 5 号館改修に伴う配管埋設工事のため、立会調査を実施した。北側の a～e 地点では、地表下 80～100cm の掘削を行ったが、80cm 前後まで表土であった。b・c・e 地点では、下層が確認できたが、砂質層でやわらかく、河川跡や氾濫による堆積物である可能性が高い。南側の①地点でも川砂と推定される層が 2 層で確認されている。

②～⑩地点では、灰色で砂質シルトを基調とした土層が確認され、水田層であると推定される。⑥地点は、地表下 2m 近くまで掘削が及び、プライマリーな層が複数層確認されているが、いずれも遺物は出土していない。

b・c・d 地点 2 層：灰褐色、砂質でやわらかく、黄白色砂のブロックを含む。

①地点 2 層：にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粗細砂層、0.1～5cm 大のパミス含む。もろい。

③地点 2 層：灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト、黄褐色 (10YR5/8) シルトが混ざる。0.5～1cm 大のパミスを少し含む。硬くしまる。

⑤地点 2 層：にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質シルト、1cm 大のパミスを少量含む。硬くしまる。

⑥地点 2 層：灰褐色 (10YR 4/2) 砂質シルト、0.5～3cm 大のパミス少し含む。

⑥地点 3 層：灰褐色 (5YR4/2) 砂質シルト、0.5～1cm 大のパミス少し含む。

⑥地点 4 層：灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト、褐色 (10YR 4/6) 砂質シルト、0.5～1cm 大のパミス少し含む。

⑥地点 5 層：黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト、0.5～1cm 大のパミスを少し含む。

⑥地点 6 層：黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト、0.5～1cm 大のパミスを少し含む。

⑥地点 7 層：にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルト、粘質。

⑥地点 8 層：黒褐色 (10YR3/2) シルト、粘質。

3 立会調査

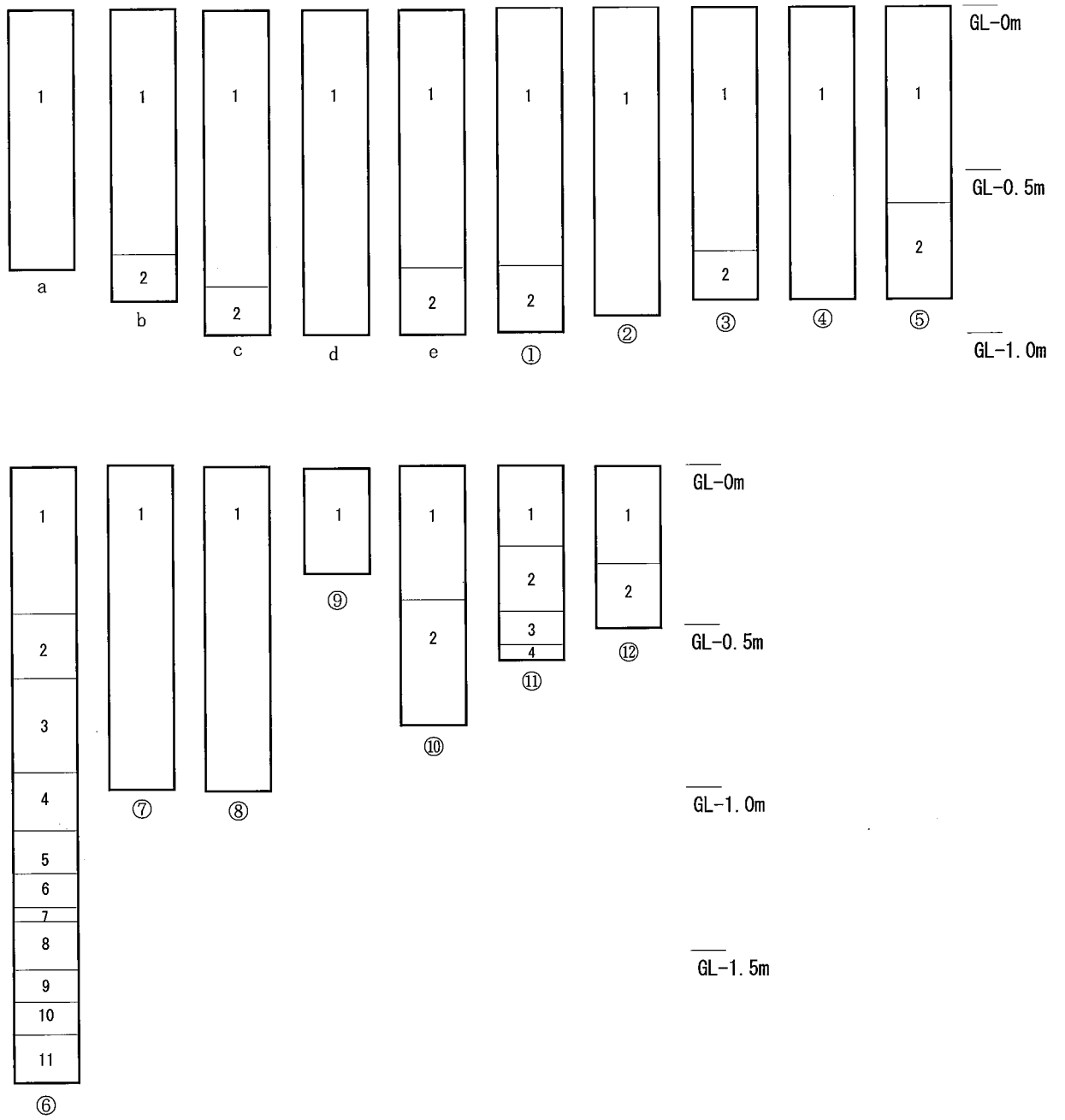
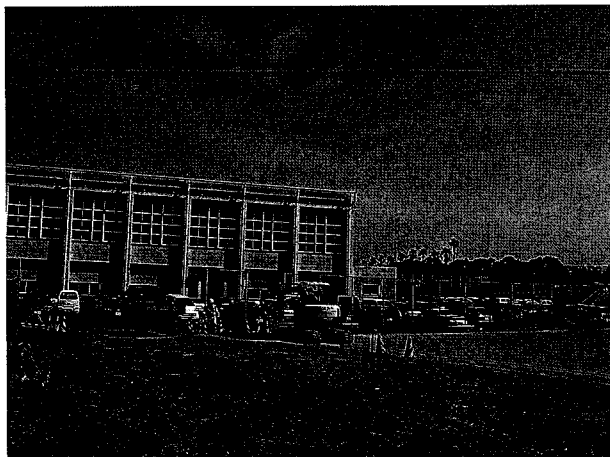


Fig.9 2005-I 層位柱状図



PL. 5 立会調査 (1) 2005-A 左：調査区遠景 (西より)，右：a地点掘削状況



1



4



2



5



6

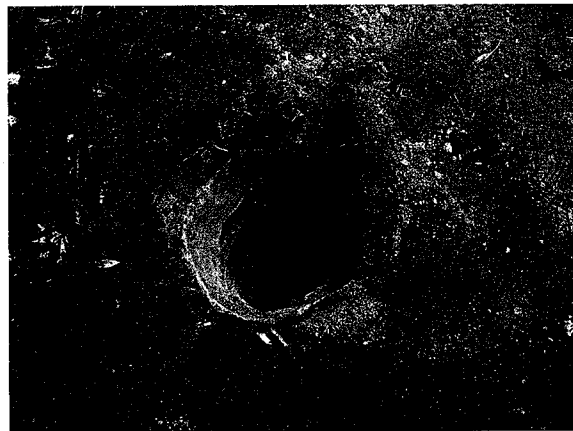


3

PL.6 立会調査 (2) 1: 2005-B 調査区 (西より),
2: 2005-B 掘削状況 (西より) 3: 2005-C ①地点 (東から),
4: 2005-C ①地点掘削状況, 5: 2005-C ②地点 (南東から),
6: 2005-C ②地点掘削状況



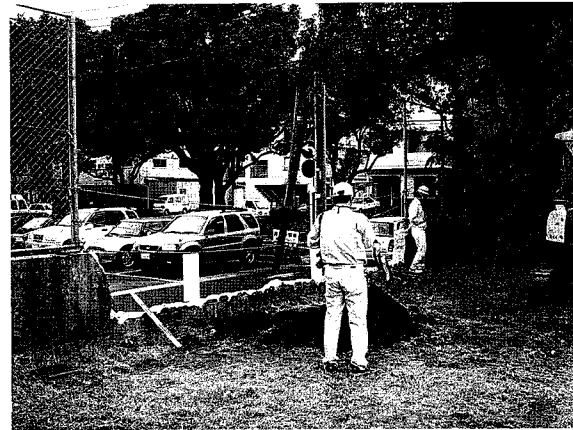
1



4



2



5



3



6

PL.7 立会調査(3) 1:2005-C③地点(東から), 2:2005-C④地点(南から), 3:2005-C⑤地点(東から), 4:2005-C⑤地点掘削状況, 5:2005-E調査区(南西より), 6:2005-E掘削状況



1



3



4



2



5

PL.8 立会調査(4) 1:2005-F調査区(東より), 2:2005-F掘削状況(東より), 3:2005-F b地点土層 4:2005-G調査区(東より), 5:2005-G掘削状況

3 立会調査



1



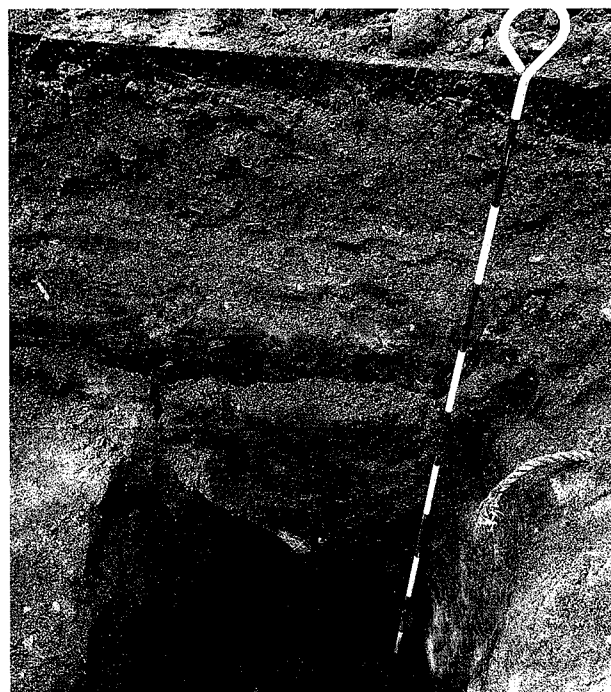
2



3



5

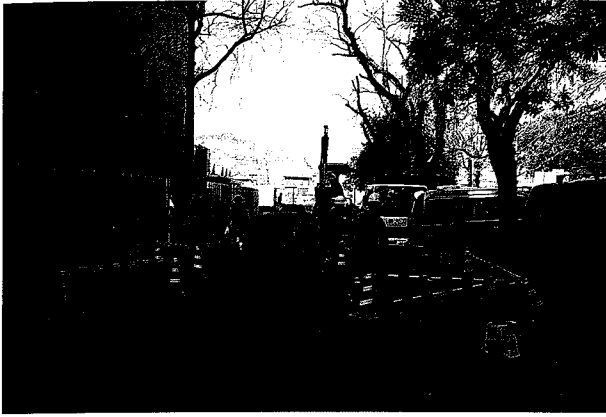


4



6

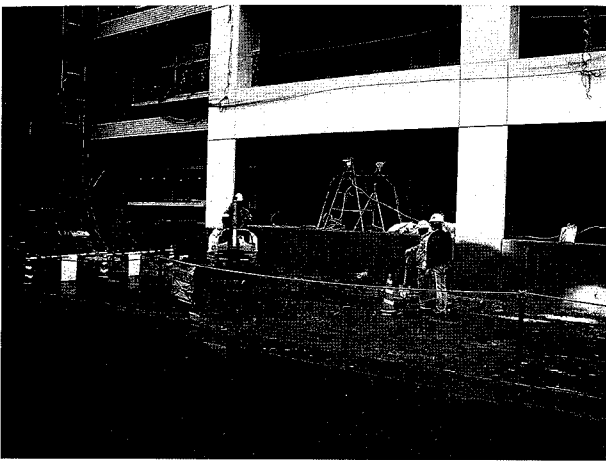
PL.9 2005-I 立会調査 (5) 1: 2005-H 掘削状況 (南東より), 2: 2005-H 掘削状況 3: 2005-lab 地点 (南西より), 4: 2005-lc 地点掘削状況, 5: 2005-I ①地点 (南東から), 6: 2005-I ①地点掘削状況



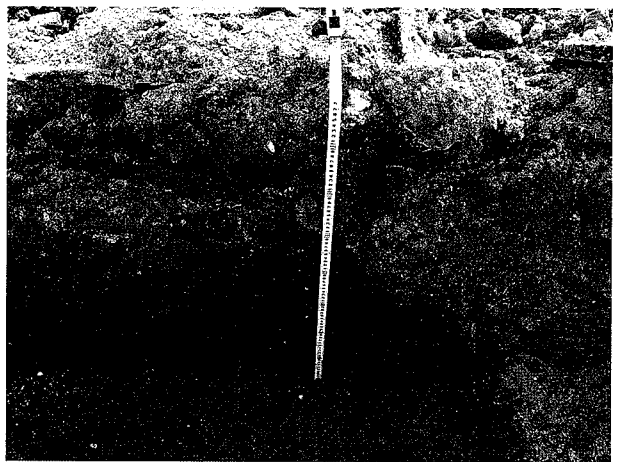
1



4



2



5



3

PL.10 立会調査 (6) 1: 2005-I ㊸㊸地点 (東より),
2: 2005-I ㊸㊸地点 (北から), 3: 2005-I ㊸地点掘削状況, 4: 2005-I
㊸㊸㊸地点 (東から), 5: 2005-I ㊸地点掘削状況

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人鹿児島大学常置委員会規則（平成16年4月1日制定）第3条第3項に基づき、国立大学法人鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会(以下「委員会」という。)に関し、必要な事項を定める。

(組織)

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 鹿児島大学埋蔵文化財調査室長（以下「調査室長」という。）

(2) 各学部の教授、助教授又は講師のうちから選出された者 各1名

2 前項第2号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第3条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。

(1) 調査実施計画に関すること。

(2) 埋蔵文化財調査室の予算に関すること。

(3) その他埋蔵文化財の業務に関すること。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、第2条第1項第1号をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 委員長は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 委員会に関する事務は、施設部企画課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附則

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

鹿児島大学埋蔵文化財調査室規則

(趣旨)

第1条 この規則は、鹿児島大学学則（平成16年4月1日制定）第7条第2項の規定に基づき、鹿児島大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 調査室は、鹿児島大学（以下「本学」という。）の埋蔵文化財の調査に関する業務を行い、本学内に存在する埋蔵文化財の保護対策を講ずることを目的とする。

(業務)

第3条 調査室は、次の業務を行う。

- (1) 調査実施計画の立案
- (2) 発掘調査、分布調査および確認調査
- (3) 調査報告書の作成
- (4) その他必要な事項

(職員)

第4条 調査室に、次の職員を置く。

- (1) 調査室長 (以下、「室長」という。)
- (2) 主任
- (3) その他必要な職員

第5条 室長は、本学の考古学に関連する教員の中から国立大学法人鹿児島大学学内共同研究施設等人事委員会(以下「委員会」という。)が推薦し、学長が選考する。

- 2 室長は、調査室の業務を掌理する。
- 3 室長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 4 室長に欠員を生じた場合の補欠の室長の任期は、前任者の残任期間とする。

(主任等)

第6条 主任は、調査室の職員の中から、特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を委員会が推薦し、学長が選考する。

- 2 主任は、室長の命を受けて調査室の業務を処理する。
- 3 職員は、調査室の業務に従事する。

(事務)

第7条 調査室に関する事務は、施設部企画課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、調査室に関し必要な事項は、別に定める。

附則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この規則施行後、最初の室長は学長が指名した者をこの規則により選考したものとみなす。

・鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会委員 (平成17年4月1日現在)

委員長 新田栄治 (埋蔵文化財調査室 室長)

委員 本田道輝 (法文学部)

日隈正守 (教育学部)

井村隆介 (理学部)

岩橋法雄 (医学部)

山崎要一 (歯学部)

八野知博 (工学部)

佐々木修 (農学部)

佐野雅昭 (水産学部)

山崎要一 (大学院医歯学総合研究科)

・鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長（併） 法文学部教授 新田栄治

主任助教授 中村直子

助手 新里貴之

技術補佐員 有村航平（平成 17 年 7 月まで）

篠原美智子

福永美保子（平成 17 年 8 月より）

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 21

2007年3月発行

編集・発行 鹿児島大学埋蔵文化財調査室
鹿児島市郡元一丁目 21-24
TEL 099-285-7270

印刷 湧上印刷株式会社
鹿児島市樋之口町 6-6
TEL 099-225-2727
